

新田の寺と社

匠 瑤 探 訪

190

市内には「新田」と呼ばれる集落が何カ所もあり、そのほとんどは江戸時代に干拓され、本村あるいは親村に隣接して存在しています。

吉田地区の新田は、1635(寛永12)年に旗本稲垣氏が吉田村に陣屋を置き、その周辺にできた集落です。陣屋は支配にあたった役人の役所などをそう呼びます。当時の所領は八日市場村

(中央地区)、久方村(豊栄地区)、吉田村にあり、稲垣氏はその後、1万3000石の大名に取り立てられました。

稲垣氏は領内の寺院を天台宗に改宗しました。蓮城寺もこの時に天台宗に改宗し、1660(万治3)年には本尊を造立し中興されました。同時に家老の田村茂兵衛は娘の眼病が治ることを祈願し、お堂を建て薬師如来など3体の仏像をまつたとされます。

寺がある集落の中心地から鬼門(北東)にあたる方向に「蔵王大明神」がまつられています。江戸時代にはおそらく蔵王権現をまつる「蔵王堂」だったので

しょう。調査した2月第1日曜日は、新田集落で「オビシ

ヤ」が行われました。「氏子中連名箱」と呼ばれる箱の裏面に、「1870(明治3)年2月朔日」今般、御一新に付き相改め」と書かれ、明治維新後の神仏分離で、蔵王権現に変え「蔵王大明神」がまつられたのでしょう。

現在の本殿には、正面向かって中央に「蔵王権現社」、左側に「子安神社」、右側に「大杉神社」がまつられています。

祭礼当日、当番が「アンバ様」として信仰される大杉神社(茨城県稲敷市安波に所在)から受けて来た天狗の面や幣束を各社に納めたあと、当番を胴上げし、労をねぎらいました。

1697(元禄10)年の稲垣氏所領替えの後、吉田村は旗本など7氏による支配となりました。集落ごとにまつられた神社では新年を迎え「オビシヤ」などの伝統行事が継承されています。

(市文化財審議会委員・依知川雅一)

閩秘書課広報広聴班

073・0080



蔵王大明神の祭礼

田集落で「オビシ